



株式会社フォーカスシステムズ

2020年3月期決算説明会

2020年5月27日

イベント概要

| | | | |
|----------|----------------------------------|------|--------|
| [企業名] | 株式会社フォーカスシステムズ | | |
| [イベント種類] | 決算説明会 | | |
| [イベント名] | 2020年3月期決算説明会 | | |
| [決算期] | 2019年度 通期 | | |
| [日程] | 2020年5月27日 | | |
| [ページ数] | 22 | | |
| [時間] | 10:00 – 10:22 (合計：22分、登壇：22分) | | |
| [開催場所] | インターネット配信 | | |
| [会場面積] | | | |
| [出席人数] | | | |
| [登壇者] | 1名 | | |
| | 代表取締役社長 | 森 啓一 | (以下、森) |

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

森：株式会社フォーカスシステムズ、社長の森です。

第44期の決算説明会は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、動画配信にて実施させていただきます。本日は、第44期の業績についての概要とともに、財務面の状況、今期の業績予想をご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

ハイライト

Focus Systems

決算

- ✓ 売上高・各利益ともに過去最高を更新
- ✓ 会社設立以来初めてとなる中間配当（令和記念配当）を実施
年間配当金（20円 ⇒ 25円）、配当性向向上（34.4% ⇒ 40.4%）

事業

- ✓ 既存事業の拡大は順調に進捗
 - ・公共関連システムの拡大
 - ・IoT（自社製品ビーコンを使った位置測位システム実証実験）
 - ・業務アプリケーション（営業活動の自動化サポートソリューション追加）
- ✓ 種を蒔いた取組みの一部が発芽フェーズへ移行
 - ・AI（医療画像判定／教師データ作成自動化／AI×ARショー演出実証実験）
 - ・エネルギー（三次電池の実装に関する共同研究）

4

それでは、最初に、第44期の業績からご説明いたします。

まず、ハイライトですが、売上高・各利益ともに過去最高を更新いたしました。

また、会社設立以来初めてとなる中間配当、令和記念配当を実施させていただきました。年間配当額は、それに伴い20円から25円、配当性向も向上し、40.4%となりました。

事業におきましても、既存事業の拡大は順調に進捗いたしました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

一昨年度から取り組んでまいりました新規事業におきましても、種を蒔いた取組みの一部が発芽フェーズへの移行という形で、さまざまな形でのプレスリリース等も含め、当事業年度に関しては発表させていただいております。これも後ほどご覧いただければと思います。

概況

Focus Systems

- ✓ 設備・人材投資を行いつつも、着実な案件獲得・拡大、管理体制の強化により、増収増益
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う当社の業績に与える影響は、当事業年度は軽微

(単位:百万円)

| | 2019/3期 実績 | 2020/3期 計画 | 2020/3期 実績 | 前期比 | | 計画比 | |
|------|---------------|---------------|---------------|-------|------|-----|------|
| | | | | 増減額 | 増減率 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 21,453 | 21,800 | 22,703 | 1,250 | 5.8% | 903 | 4.1% |
| 営業利益 | 1,368 | 1,420 | 1,428 | 60 | 4.4% | 8 | 0.6% |
| 経常利益 | 1,375 | 1,420 | 1,467 | 92 | 6.7% | 47 | 3.4% |
| 純利益 | 874 | 930 | 930 | 56 | 6.4% | 0 | 0% |

5

まず、概況ですけれども、当事業年度 2020 年 3 月期におきましては、売上高 227 億 300 万円、営業利益 14 億 2,800 万円、経常利益 14 億 6,700 万円、純利益 9 億 3,000 万円という結果となりました。

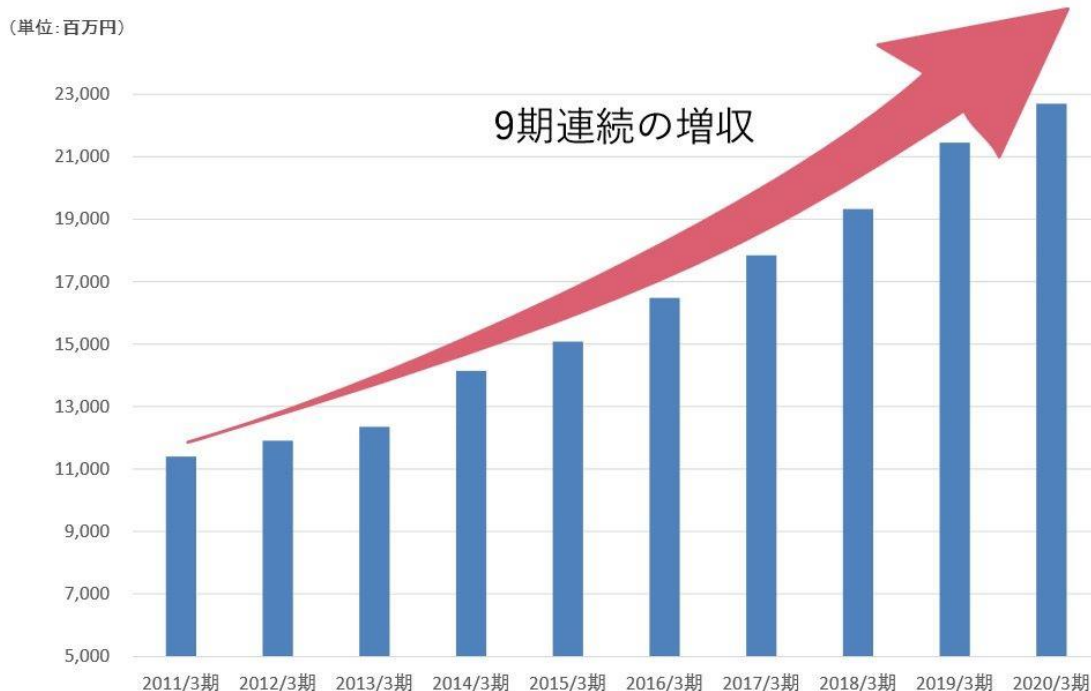
前期に比べまして、それぞれ売上高につきましては 5.8%の増加、営業利益は 4.4%、経常利益は 6.7%、純利益も 6.4%での増加となっております。

また、計画におきましても、売上高、営業利益、経常利益、それぞれにつきまして増加しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
 Asia's Meetings, Globally



6

特に、売上高につきましては、9期連続の増収となりました。2011年3月期、9年前の売上高は114億100万円。そして、2020年3月期、当事業年度におきましては、227億300万円で、この9年で113億円の伸びとなっております。約2倍、売上が増収した形となっております。

また、経常利益におきましても、2011年3月期には1億4,500万円の経常利益でしたが、当事業年度におきましては14億6,700万円で、経常利益については10倍。当期利益につきましても、8,600万円から9億3,000万円で、約11倍の伸びとなっております。

さらに、配当金におきましても、2011年3月期には5円配当でありましたが、2020年、当事業年度におきましては25円配当となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

3期連続増益



7

続いて、こちらは利益の推移です。3期連続の増益という形になりました。営業利益、経常利益ともに約2倍、そして純利益におきましても、約1.7倍の増益となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注) 1 | 財務諸表 計上額 (注) 2 |
|----------------|---------|--------|------------------|--------|--------------|----------------------|
| | 公共関連事業 | 民間関連事業 | セキュリティ 機器関連事業 | 計 | | |
| 売上高 | 7,300 | 14,088 | 1,314 | 22,703 | — | 22,703 |
| 売上高構成比 | 32.2% | 62.0% | 5.8% | 100% | — | — |
| セグメント利益 | 1,221 | 1,643 | 240 | 3,105 | △1,676 | 1,428 |
| セグメント利益 構成比 | 39.3% | 52.9% | 7.8% | 100% | — | — |

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,676百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費（全社費用）です。
 2 セグメント利益は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

8

続いて、セグメント別の状況です。当社は、公共関連事業、民間関連事業、そしてセキュリティ機器関連事業の三つのセグメントに分けておりますが、それぞれ売上高 73 億円、140 億 8,800 万円、13 億 1,400 万円という結果となりました。

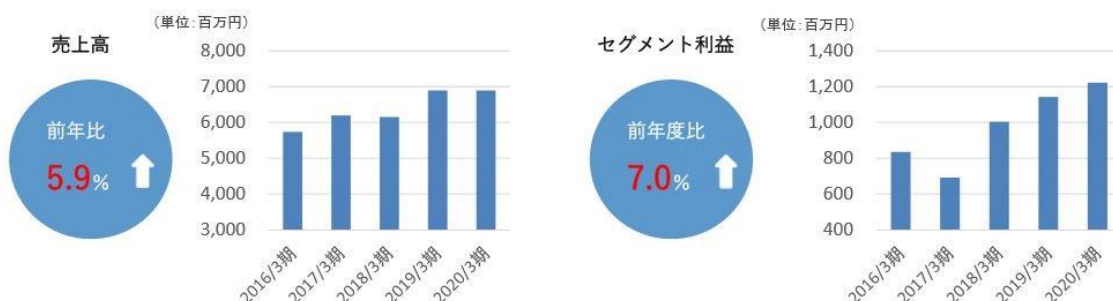
こちら、9 年前、2011 年 3 月期と比較しますと、公共関連事業におきましては 144%、民間関連事業におきましては 238%、そしてセキュリティ機器関連事業におきましては、317%という形で、いずれのセグメントにおきましても順調に伸びていると言えます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

公共関連事業

最終ユーザーは官公庁及び地方自治体。
提案から設計、製造、試験、システム稼働後の保守・運用まで行っている。
財務システム、貿易システム、航空管制システム、福祉介護システム、社会保険システム等
さまざまなシーンで社会を支えている。



- ✓ 事業部間に横串を通した協働体制・高収益体制の強化により、成長基調を維持
- ✓ プロジェクト管理の徹底が奏功し、大きなトラブルもなく増益で着地

9

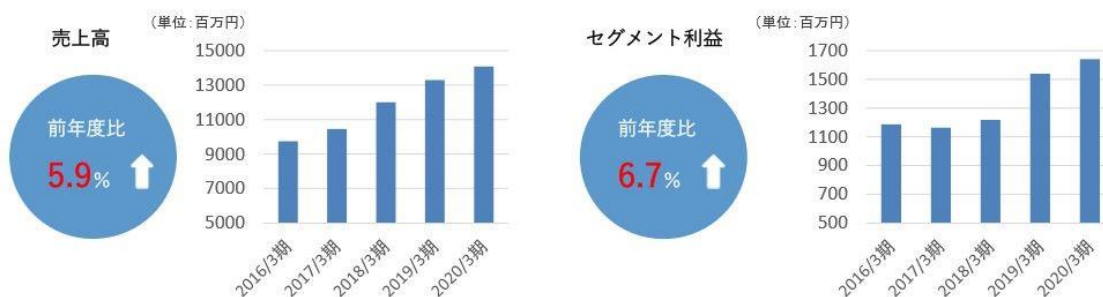
続いて、セグメント別の概況です。まず、公共関連事業ですけれども、公共関連事業は前年度と比較して、売上高におきましては5.9%、そして利益におきましては7.0%の増加となりました。これは事業部間に横串を通した協働体制・高収益体制の強化によって、成長基調を維持できたこと、またプロジェクト管理の徹底が功を奏して、大きなトラブルもなく増益で着地できたことが主な要因となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

民間関連事業

最終ユーザーは主に民間企業。
日本IBM様を始めとし、沖電気様、ソフトバンク様、TISインテック様等とのパートナーシップの下、さまざまな民間企業向けシステムの開発や基盤構築から運用保守まで行っている。
業務アプリケーション、通信制御システム、IoT、AI等、携わるシステムは多岐にわたる。



- ✓ 人材育成投資（新スキルの習得）・設備投資（プロジェクトルームの開設）を実施
- ✓ ビジネス領域拡大のための戦略的投資を実施するも、新規案件の確保・既存案件の拡大、請負案件・直請け案件の増加により増収増益を継続

10

続いて、民間関連事業です。こちらも公共関連事業と同様、売上高につきましては前年度比 5.9%、セグメント利益に関しましても、前年度より 6.7%増加で、順調に推移しております。

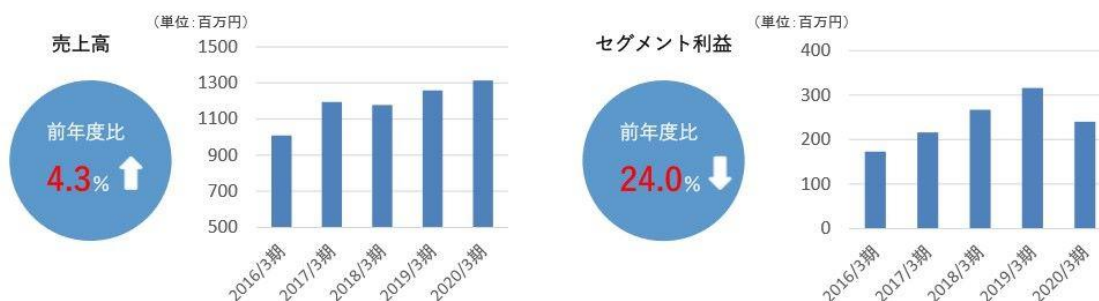
こちらの、民間関連事業におきましては、人材育成の投資や、プロジェクトルームの開設で若干費用がかかったんですけれども、それを上回る新規案件の確保、そして既存案件の拡大、そして請負案件・直請け案件の増加によって、増収増益を継続することができたという結果となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

セキュリティ機器 関連事業

提供先は官民間問わず、広い顧客基盤を持つ。
暗号技術・電子透かし・デジタルフォレンジック・サイバーセキュリティ等の技術を活用し、
セキュリティ事故を防ぐための防御対策から事後対応までカバーし、さまざまなニーズに対応。
海外にも多くのパートナーを持ち、新技術の習得及びスペシャリストの育成に努めている。



- ✓ セキュリティ製品・デジタルフォレンジック製品共に販売が好調に進み、連続増収
- ✓ 主にデジタルフォレンジック分野において競争が激化したことに伴い、利益よりもシェア拡大のための案件確保を優先した大型案件が発生し、減益で着地

11

続いて、セキュリティ機器関連事業です。こちらは、売上高は前年度に比べまして4.3%の増加となりましたが、セグメント利益は前年に比べて24.0%の減益となりました。

セキュリティ製品や、デジタルフォレンジック製品の販売は好調でした。しかし、主にデジタルフォレンジック分野において、競争が激化してしまったことに伴って、こちらの案件はほぼ入札で売上高を受注するもので、そのシェア拡大のために案件確保を優先した結果、利益が減ってしまったという形で、前年度に比べて24.0%の減益となっております。

以上が、セグメント別の説明でした。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

貸借対照表 (B/S)

(単位：千円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|----------------|-------------------|-------------------|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 9,789,684 | 9,835,703 |
| 固定資産 | 6,202,308 | 5,526,174 |
| 有形固定資産 | 3,492,654 | 3,596,338 |
| 無形固定資産 | 96,390 | 50,907 |
| 投資その他の資産 | 2,613,262 | 1,878,927 |
| 資産合計 | 15,991,992 | 15,361,878 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 4,434,914 | 4,829,780 |
| 固定負債 | 2,450,538 | 1,646,197 |
| 負債合計 | 6,885,453 | 6,475,977 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,905,422 | 2,905,422 |
| 資本剰余金 | 2,138,968 | 2,138,968 |
| 利益剰余金 | 3,249,051 | 3,803,203 |
| 自己株式 | △359,961 | △359,961 |
| 評価・換算差額等 | 1,170,358 | 398,267 |
| 新株予約権 | 2,700 | - |
| 純資産合計 | 9,106,539 | 8,885,900 |
| 負債純資産合計 | 15,991,992 | 15,361,878 |

前事業年度末に比較し630百万円減少
(主な増加理由)
・売掛金の増加778百万円
(主な減少理由)
・投資有価証券の減少961百万円
・現金及び預金の減少719百万円

前事業年度末に比較し409百万円減少
(主な増加理由)
・買掛金の増加250百万円
(主な減少理由)
・長期借入金の減少445百万円

前事業年度末に比較し220百万円減少
(主な増加理由)
・繰越利益剰余金の増加554百万円
(主な減少理由)
・その他有価証券評価差額金の減少772百万円

12

続いて、貸借対照表です。こちらも、見ていただければ分かるんですけども、前事業年度と当事業年度を比較しまして、若干資産が減少しております。これは、主な原因は、弊社が保有しております投資有価証券の時価が、3月末において株価が下がったことによる、時価評価による影響が主なものであります。

また、長期借入金も順調に減っていますし、利益剰余金も増加しております。減少の理由としては、先ほどの投資有価証券の時価評価が主な原因で、資産が減っていると考えていただければと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位：千円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|------------|------------|------------|
| 売上高 | 21,453,829 | 22,703,906 |
| 売上原価 | 18,455,261 | 19,598,693 |
| 売上総利益 | 2,998,567 | 3,105,213 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,630,282 | 1,676,770 |
| 営業利益 | 1,368,284 | 1,428,442 |
| 営業外収益 | 48,183 | 70,332 |
| 営業外費用 | 40,904 | 31,176 |
| 経常利益 | 1,375,563 | 1,467,598 |
| 特別利益 | - | 30,840 |
| 特別損失 | 73,988 | 68,356 |
| 税引前当期純利益 | 1,301,574 | 1,430,082 |
| 法人税等 | 427,292 | 499,766 |
| 当期純利益 | 874,282 | 930,316 |

13

続いて、損益計算書です。数字は、先ほど説明させていただきましたので、ここでは利益率について簡単に説明させていただきます。

まず、売上総利益率ですけれども、前事業年度は 13.97%でしたが、当事業年度は 13.67%となりました。利益額については増加いたしましたけれども、利益率については減少しております。こちらは、先ほども説明いたしました、セキュリティ機器関連事業におきましての落ち込みが影響していると捉えていただければと思います。

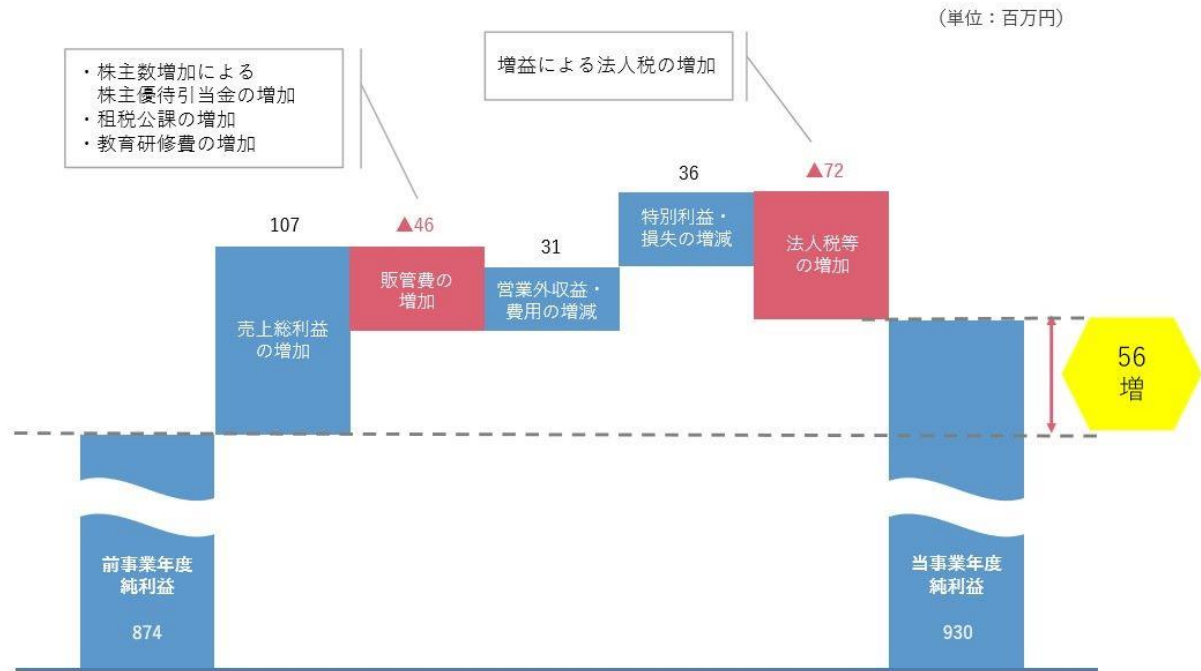
また、販管費におきましては、4,600 万円ほど増加しておりますけれども、こちらは教育研修費の増加、株主数の増加による株主優待引当金の増加、そして税金の増加が主な内容であります。

以上を踏まえて、営業利益におきましては、前事業年度は 13 億 6,828 万円で、6.38%でしたがけれども、当事業年度におきましては 14 億 2,844 万円の営業利益は出たものの、6.29%という結果となりました。

ただ、一方で、経常利益におきましては、前事業年度よりも良い利益率となっております。そして、当期純利益におきましても、若干ではありますが、当事業年度のほうが良い利益率です。前事業年度は 4.07%でしたがけれども、当事業年度は 4.09%で推移したのが今年度の結果でありました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



14

続いて、純利益の増減分析です。こちらはグラフで分かりやすいように作ってありますので、後ほど見ていただければと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(単位：千円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|------------------|-----------|-----------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,322,763 | 745,907 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △395,181 | △587,629 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △832,644 | △874,162 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 94,937 | △715,884 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 4,683,200 | 4,778,137 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 4,778,137 | 4,062,253 |

745百万円の収入
 (主な収入)
 ・税引前当期純利益 1,430百万円
 ・仕入債務の増加額 250百万円
 ・減価償却費 167百万円
 (主な支出)
 ・売上債権の増加額 804百万円
 ・法人税等の支払額 481百万円

587百万円の支出
 (主な支出)
 ・有形固定資産の取得による支出 232百万円
 ・投資有価証券の取得による支出 210百万円
 ・差入保証金の差入による支出 92百万円

874百万円の支出
 (主な収入)
 ・社債の発行による収入 591百万円
 ・長期借入れによる収入 200百万円
 (主な支出)
 ・社債の償還による支出 690百万円
 ・長期借入金返済による支出 582百万円
 ・配当金の支払額 374百万円

前年度末に比較し715百万円減少

続いて、キャッシュ・フローの状況です。前事業年度と当事業年度を比較しまして、営業活動によるキャッシュ・フローはプラス。そして、投資活動、財務活動によるキャッシュ・フローはマイナスで、会社本来の事業で利益を出して、それを投資および借入の返済に充てるといった形です。会社として、理想的なキャッシュ・フローの動きではないかと思うんですけども、それが昨年度に続き、当事業年度もそういうことができました。

財務基盤もきちんと強化されて、会社としても、これを基盤として、ここにやはり新しい事業を積み上げていくのが課題であると感じております。

キャッシュに関しても、期首と期末を比べますと7億円ほど減っております。これは、この理由を見ていただきますと分かるように、問題なく、会社としては減っていますけれども、推移していると考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



| | 2017/3期 | 2018/3期 | 2019/3期 | 2020/3期 |
|------------|---------|------------------|------------------|-------------------------|
| 1株当たり当期純利益 | 39.83円 | 51.21円 | 58.11円 | 61.83円 |
| 1株当たり配当金 | 12.50円 | 16.00円 | 20.00円 | 25.00円 (うち中間配当5.00円) |
| | - | (期首計画) 12.50円 | (期首計画) 16.00円 | (期首計画) 20.00円 |
| 配当性向 | 31.4% | 31.2% | 34.4% | 40.4% |

16

続いて、株価・配当の推移です。こちらも表を見ておいてください。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- ✓ 2020/3末の株主総数は7,245人（2019/3末から378名増）
- ✓ 外国人・証券会社の株数が減少した一方で、投信・事業法人の株数が増加



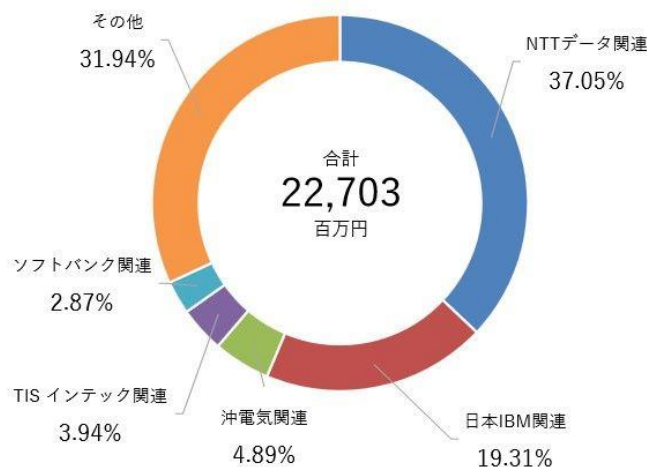
17

続いて、株主構成および各所有株式数です。こちらも、この3年ぐらい、ほぼ株主数はあまり大きく変動しておりません。ただ、2020年3月末におきましては、7,245名で、2019年3月末から378名の増加となっております。

ただ、こちらは会社として株価が上がり、そしてまた新しい事業の取組みと、株価が上がれば株主も増加していくのではないかと考えておりますので、皆様から注目してもらえるような会社にするのが、会社としての課題であると考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



| 顧客名 | 2020/3期 売上高 (百万円) |
|-------------|----------------------|
| NTTデータ関連 | 8,411 |
| 日本IBM関連 | 4,384 |
| 沖電気関連 | 1,110 |
| TIS インテック関連 | 895 |
| ソフトバンク関連 | 650 |
| その他 | 7,251 |
| 合計 | 22,703 |

- ✓ NTTデータ関連企業様、日本IBM関連企業様、沖電気関連企業様への売上高が増加
- ✓ 沖電気関連企業様からの受注が大幅伸長
前事業年度は売上高が5番目に高かったが、当事業年度は3番目に高い顧客に累進

18

続いて、主要顧客グループ別売上高の構成比です。今回、こちらで大きなトピックスとしましては、沖電気関連事業です。こちらが、これまで5番目の売上高だったのが、当事業年度は3番目と、沖電気関連からの受注が非常に順調であったことが挙げられると思います。

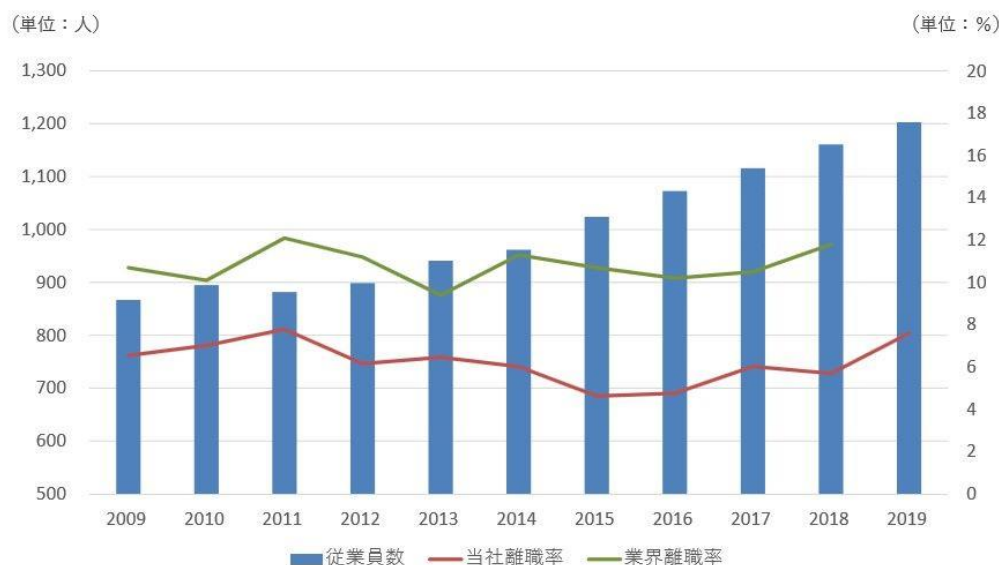
上位3社、NTTデータ関連、日本IBM関連、そして沖電気関連の3社。この売上高は、全体の売上高に対して61.2%となっております。

ただ、一方で、他のユーザーも順調に額として伸びていると。また、新規も確保できていることを踏まえて、このポートフォリオについては特に問題ないと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- ✓ IT人材の流動性が高まったことにより、当社離職率が上昇
- ✓ 人材獲得のための採用強化及び魅力付けを図り、従業員数が堅調に増加するとともに業界離職率を下回る離職率を維持



(※) 業界離職率は厚生労働省発表「雇用動向調査結果の概要」を参考にしております。2019年の離職率は未発表のため、掲載しておりません。

19

続いて、社員数および離職率の推移です。昨今のIT人材の流動性が高まったことによって、当社の離職率も約2%上昇いたしました。この2%という数字は、当社にとっては約20名に当たりますけれども、世の中の全体的な推移から見れば、かなり低い数字を今も維持している状況であります。

以上が、当事業年度の決算の説明となります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

企業活動を通して生まれた付加価値を、社会に還元する企業に

IT技術の提供という立場から、
当社は長年にわたり社会と寄り添って成長を続けてまいりました。

今後も成長を続けるために、
既存業務においては常に改善改良に努めてまいります。

一方で新たな事業の創出のためには、
リスクを恐れず、果敢にチャレンジする姿勢が重要だと考えています。

そのように生み出された付加価値を、
ステークホルダーの皆様へ還元することで
社会に貢献し続ける会社でありたいと考えています。

会社はこれまで描いてきたドラマの積み重ねです。
すべてのステークホルダーの皆様へワクワクして頂けるよう、
これからもドラマを仕掛ける会社であり続けたいと考えています。

代表取締役社長 森 啓一



21

続きまして、2021年3月期、第45期における私からのメッセージと業績予想についてご説明させていただきます。

まず、私からのメッセージです。当期は、「企業活動を通して生まれた付加価値を、社会に還元する企業に」していこうと。一言で言えば、より社会貢献を前面に打ち出した会社としていこう、ということ、今年度は取り組んでいきたいと思えます。

こちらの絵にもありますけれども、中心にワクワクといったワクワク感を持って、常にリスクを恐れず果敢にチャレンジしていくと。そして、そこから成果を出して、その成果から生み出した利益を、付加価値を、ステークホルダーの皆様へ還元していこうと。同時に、社会貢献し続ける会社となっていこうということを考えております。

新型コロナウイルス感染症の影響で、ともすると後ろ向きになる気持ちを忘れて、こんなときだからこそ前向きにチャレンジしていこうと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の世界的流行が与える影響を鑑み、2020/3期と同等の売上高・利益となる予想
- ✓ 配当金は、2020/3期の普通配当「20.00円/株」を維持する見込み

| | 2020/3期実績 (百万円) | 2021/3期予想 (百万円) | 対前期増減率 (%) |
|-------|--------------------|--------------------|---------------|
| 売上高 | 22,703 | 22,800 | 0.4 |
| 営業利益 | 1,428 | 1,430 | 0.1 |
| 経常利益 | 1,467 | 1,430 | △2.6 |
| 当期純利益 | 930 | 940 | 1.0 |

| | 2020/3期実績 | 2021/3期予想 |
|----------------|--------------------------|-----------|
| 1株当たり年間配当金 (円) | 25.00 (うち令和記念配当5.00円) | 20.00 |
| 配当性向 (%) | 40.4 | 32.0 |

22

続いて、今年度の業績予想です。今年度の業績予想につきましては、この数字を発表するのは非常に悩みました。しかし、今いまの段階、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が与える影響をある程度鑑みた上で、2020年3月期と同等の売上高・利益になるという形で、いったん予想をさせていただきました。

実のところ、第1クォーター以降どのようなようになるのかは、まだ動向が見えていない状況です。当社におきましても、4月、5月と、営業活動ができませんでした。また、旅行業、そして自動車産業、製造業については、延期や中止の報告も上がってきております。

今後、第1クォーター以降、それがどのように会社の業績に影響を与えてくるのかは、まだまだ見えない状況ですけれども、そちらを、会社としてもしっかりと注視した上で、昨年度の数字を下回らない形での決算ができれば、会社としてはうれしいと考えております。

それを踏まえて、こちらの売上高につきましては228億円、営業利益につきましては14億3,000万円、経常利益も14億3,000万円、当期純利益9億4,000万円という数字を出させていただきました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

また、配当金につきましては、記念配当は今期はなしになりまして、20円配当を発行していきたいと思っております。ちなみに、この20円配当における、9億4,000万円に対する配当性向は32.0%となっております。

以上をもちまして、今年度の業績予想の説明をさせていただきました。

今年度、フォーカスシステムズが大きく変わったというか、新しく打ち出した内容といたしましては、先ほどもお話しさせていただきましたけれども、社会貢献をより鮮明に打ち出していこうと考えております。ですので、この社会貢献をするためには、既存事業の拡大で利益を確保していくことは当然重要でありますし、新規の事業についても常にチャレンジ精神をもって、そこから新しいものを生み出していく精神が必要であります。

常に会社が成長、発展を遂げていかないと、その付加価値をもって社会貢献をすることができませんので、それであっての社会貢献であると考えております。それも含めて、会社としては前向きな形で、事業活動を今後とも行っていきたいと思っております。

この後に、ご参考としましてのトピックス、会社の状況の内容について記載しておりますので、こちらも後ほど見ていただければと思います。

以上をもちまして、第44期の決算説明会を終了いたします。今後ともフォーカスシステムズをよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

